



TITLE:

形態基礎研究部門(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

近藤, 四郎; 岩本, 光雄; 渡辺, 毅; 毛利, 俊雄

CITATION:

近藤, 四郎 ...[et al]. 形態基礎研究部門(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報 1981, 10: 10-11

ISSUE DATE:

1981-01-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162955>

RIGHT:

4. 再手続きをすることにより貸出期限の延長ができる。ただし、他に借用希望者がある時は、そちらを優先する。
5. 借用後の図書は返却台に返却する。
* 図書室では霊長類関係の研究報告の別刷を1977年度より系統的に集めており、1980年7月末現在14,600部を所蔵している。

Ⅳ. 総点検および長期貸出

1. 毎年1回図書の総点検を行なう。この時は、貸出期限内外を問わず、すべての図書を返却する。
2. 総点検期間中、原則として図書室は休室とする。
3. 図書委員会により研究室等への備えつけが認められた図書は、長期貸出扱いとする。長期貸出期間は1年で、長期貸出扱いの更新は総点検時に行なう。

Ⅴ. その他

1. 資料を紛失したり汚損した場合は、代本または相当の代金で補わなければならない。
2. 借用資料を期日までに返却しなかった場合、以後の貸出を一定期間停止されることがある。
3. 書庫および閲覧室内は禁煙とする。

資 料

以前にも増して資料収集活動に力を入れた。時実基金によるケニア国立博物館作製の人類を含む霊長類化石のレプリカ約300点を入手。さらに、国立予防衛生研究所村山分室の御好意により、実験殺されたカニクイザルが利用できるようになった。また、従来からの課題であった所内で実験殺等によって生ずる霊長類死体の標本化も軌道に乗せることができた。

収集した死体等は適宜、液浸または骨格標本に付している。骨格標本を作るため本棟東側にプレハブを増設し、かつ、タンパク分解酵素を用いる骨格標本作製法の改良にも努め、作業の効率化を計った。

懸案事項である標本の円滑な利用のため、コンピュータを用いた標本のコード化の作業に入った。

4. 研究活動

形態基礎研究部門

近藤四郎・岩本光雄
渡辺 毅・毛利俊雄

研究概要

1) バイベダリズムの起源

近 藤 四 郎

この数年、ロコモーションの研究グループを組織し、現生霊長類を対象として生機構学的研究を行ってきたが、これらの手法がバイベダリズムの起源を考究するためには有用であるとしても、方法論として成立し得るのかどうかの検討にかかった。

2) 新世界ザルの系統学的・形態学的研究

近藤四郎・渡辺 毅
毛利俊雄

文部省海外学術調査費により、主としてコロンビアにおいて中新世後期の地層の発掘調査に従事した。この調査で、化石霊長類の上顎臼歯を発見し、その化石(*Stirtonia*)が現生ホエザルの直接の祖先形であることが確認された。詳細な比較研究は現在継続中である。なお、本研究は瀬戸口烈司(系統研究部門)との共同研究である。

3) 旧世界ザル、特にマカクに関する形態学研究

岩 本 光 雄

主としてニホンザルに関して研究を進め、永久歯期ニホンザルの発育に関する資料(歯式と生体計測値)、ニホンザルの皮膚隆線系に関する資料、ならびに山口県秋吉台および北九州市平尾台出土のニホンザル古骨に関する記録の整理、分析を行なった(継続)。

4) エチオピア国における現生ならびに化石霊長類に関する研究

岩 本 光 雄

エチオピア国で得た研究資料を基本として(a)エチオピア国内におけるヒヒの分布図の改訂版を作成し、あわせて、アヌビスヒヒとマントヒヒの間に生じている混血現象と関連して、霊長類における種の問題を考察し、また、(b)オモ川流域で発見のいわゆる Plio-Pleistocene 期のヒヒ化石の最終的復元、写真撮影・計測等を行なった。

5) 霊長類の成長と性差に関する研究

渡 辺 毅

生体計測にもとづくデータをさらに蓄積した。これらのうち、志賀C群のデータを、志賀A群との比較、寒冷気候への適応という観点からまとめた。

6) 日本人の頭蓋形態小変異の研究

毛 利 俊 雄

前年度にひきつづき研究を継続中で、データ整理・論文作成の段階をむかえつつある。

7) マカク属サル頭蓋形態小変異の研究

毛 利 俊 雄

前項の研究のヒト以外の霊長類への応用として頭蓋の観察を始めた。

8) 縄文時代遺跡出土の人骨および獣骨に関する研究

毛 利 俊 雄

考古学的関心の高まりに応じて、国内の各種遺跡出土の人骨を含む哺乳類骨の復元・記載・報告等を行なうことにした。

総 説

- 1) 近藤四郎(1979):「足の話」, 岩波新書 101, 岩波書店, 東京。
- 2) 岩本光雄(1978): 日本人の皮膚隆線系。
“人類学講座, 第6巻(日本人Ⅱ)”, pp. 63-100, 雄山閣, 東京。
- 3) 岩本光雄(1979): アフリカの化石人類展望。
科学, 81, 181-185
- 4) 渡辺 毅(1980): ホエザル亜科の系統と進化。
モンキー, 24-1・2。

論 文

- 1) 近藤四郎・山口 敏・岩本光雄・渡辺 毅・真家和生(1979): 霊長類の下肢筋の比較解剖学的研究。文部省科学研究費補助金総合研究(A)研究成果報告書(代表者: 近藤四郎) pp. 1-11。
- 2) 近藤四郎・岡田守彦(1980): 足指の運動からみた霊長類の運動様式。文部省科学研究費補助金総合研究(A)研究成果報告書(代表者: 否原志勢), pp. 11-15。
- 3) 渡辺 毅・松本 真・浜田 稔・近藤四郎(1980): 生体計測にもとづく志賀C群ニホンザルと志賀A群ニホンザルの比較。文部省科学研究費補助金一般研究(A)研究成果報告書(代表者: 大沢 済), pp. 85-51。

- 4) 毛利俊雄(1980): マカク頭骨の非計測的変異の観察。文部省科学研究費補助金試験研究(2)研究成果報告書(代表者: 竹中 修), pp. 25-28。

- 5) Mowuri, T. (1980): Studies on the Human Skeletal Remains.
In: Halimehjan I, The Excavation at Shahpir, 1976, ed. Shinji Fukai & Toshio Matsutani, pp. 61-71. The Institute of Oriental Culture, The University of Tokyo, The Tokyo University Iraq-Iran Archaeological Expedition, Report 16.

学 界 発 表

- 1) エチオピア国オモ川下流域におけるヒヒ化石調査について。

岩 本 光 雄

第16回日本アフリカ学会大会(1979)

- 2) エチオピアにおけるヒヒの分布について。

岩 本 光 雄

第33回日本人類学会日本民族学会連合大会(1979) - 紀事: 人類学雑誌, 88: 181, 1980。

- 3) エチオピア, オモ川下流域出土の化石ヒヒ頭骨について。

岩 本 光 雄

第24回プリマーテス研究会(1980)。

- 4) 霊長類の垂直木登りにみられる下肢運動

石田英実・河畑恵明

俣野彰三・渡辺 毅

第33回日本人類学会日本民族学会連合大会(1979)。

- 5) 南米コロンビアで発見されたスタートニア(中新世後期)の上顎臼歯について。

渡辺 毅・瀬戸口烈司

毛利俊雄

第24回プリマーテス研究会(1980)。

神 經 生 理 部 門

久保田 競・松波謙一

酒井正樹・三上章允

研 究 概 要

- 1) 前頭前野の神経回路